

「目を離すな!!」

～あなたが残るため～

ヘブル12:1~29

■ 私達の過去は解決されている

クリスチャンにとって大事なテーマです。過去に捕えようとする力が私達には働いてきません。過去を贖われたのだから、過去に捕らわれる事なく今の現実に奇跡が起こるんだと信じる事が出来なければならないクリスチャンの人生が無くなるように働きかけてきます。

■ ポストモダン

この世の哲学は全ていつの時代も、人に向いたり、社会に向いたり、お金に向いて、今は自分に向いています。ポストモダンとは、自分が楽しければ良い、自分がルール、自分さえ良ければ良い、人に迷惑を加えなければ、自分が好きなようにやったって良いではないかという特徴があります。最終的に、私達自身が幸せになるためにとる行動です。

■ 聖書の語る「自由」

私達が見ようとするものは、自分自身が様々な人から影響を受けて正しいと思っているものが沢山あります。しかし、聖書は信仰の創始者であり完成者であるイエスから目を離すなどと言っています。あなたの前に生きてきた多くの人たちの姿からキチッと学ばないといけないよと言っています。そして、聖書が伝えている事は「こうだ!!」という主義ではなく絶えず自由です。自由とは自分の思う通りにする事ではありません。本当の自由というのは自らがそこにいる理由を探る事です。自由が主義になった時、自分の思う通りにならないと非常に影響を受けてしまいます。自分が考えていることが最善だと思っただけで否定されると、自分が否定されたように思っています。しかし、これが自由の本質からズレている証拠です。聖書はいつも私達がハマルティア(的外れ)していないか探れと伝えている為、「NO!!」と言われた時初めて「もしかしたら?」と感じられます。神様は1(神様)対1(自分)対ひと(他人)の関係をつくり、神様との関係を築く為に、まず隣の人との関係を保てと言います。私は自由なんだと思いつつ、過去に縛られて、現実を見て、将来に希望を見出していないのだとすれば、それは自由ではありません。

■ 私達の視線は内側に向いている?

私達が見ようとするものは、自分自身が様々な人から影響を受けて正しいと思っているものが沢山あります。しかし、聖書は信仰の創始者であり完成者であるイエスから目を離すなどと言っています。あなたの前に生きてきた多くの人たちの姿からキチッと学ばないといけないよと言っています。そして、聖書が伝えている事は「こうだ!!」という主義ではなく絶えず自由です。自由とは自分の思う通りにする事ではありません。本当の自由というのは自らがそこにいる理由を探る事です。自由が主義になった時、自分の思う通りにならないと非常に影響を受けてしまいます。自分が考えていることが最善だと思っただけで否定されると、自分が否定されたように思っています。しかし、これが自由の本質からズレている証拠です。聖書はいつも私達がハマルティア(的外れ)していないか探れと伝えている為、「NO!!」と言われた時初めて「もしかしたら?」と感じられます。神様は1(神様)対1(自分)対ひと(他人)の関係をつくり、神様との関係を築く為に、まず隣の人との関係を保てと言います。私は自由なんだと思いつつ、過去に縛られて、現実を見て、将来に希望を見出していないのだとすれば、それは自由ではありません。

ルカの福音書11章37節~40節

イエスが話し終えられると、ひとりのパリサイ人が、食事をいっしょにしてください、とお願いした。そこでイ

エスは家に入って、食卓に着かれた。そのパリサイ人は、イエスが食事の前に、まずきよめの洗いをなさらないのを見て、驚いた。すると、主は言われた。「なるほど、あなたがパリサイ人は、杯や大皿の外側はきよめるが、その内側は、強奪と邪悪とでいっぱいです。愚かな人たち。外側を造られた方は、内側も造られたではありませんか」

イエスは何かを壊そうという時に、その置かれた状況で違ったことをしてみせます。私達は外側を変えようと思いますが、聖書は内側を見ろと伝えています。私達が大事なものを見失うと人からの評価が大事になってしまい、どういう言葉をかけてもらうかで、状態が上がり下がりがしてしまいます。神様は正しいことをしようとする時に、本当にその人の心に価値を見出そうとし、真価を問われます。私達の目が私達の心に向いているかしっかり祈らなければなりません。神様の前に罪と過去を赦された事の自由を見出さないと人からの評価で生きるようになってしまいます。人から批評されたり受け入れてもらえない事、うまくいかない事は屈辱ですが、屈辱を受けるという事は、自らの肉の欲がある証拠です。自分が生きようとする時、自分を滅ぼしてしまいます。もう一度自分の生き方をしっかり見据え、神様の与えてくれた人生を生きましょう。

■ 失うこと失敗する事を恐れない

正しい人生には犠牲が伴います。何かを失っているように感じるかもしれません。しかし聖書は、あなたがこの地において家、兄弟、家族、家畜それを失うならこの地においてそれを二倍受けると約束されています。自らを取り戻そうとしているときに、失うことを恐れないでください。人がやる方法ではなく神様の方法を選ばなくてはなりません。

第1コリント1章21節~25節

事実、この世が自分の知恵によって神を知ることがないのは、神の知恵によるのです。それゆえ、神はみこころによって、宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救おうと定められたのです。ユダヤ人はしるしを要求し、ギリシヤ人は知恵を追求します。しかし、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えるのです。ユダヤ人にとってはつまずき、異邦人にとっては愚かでしょうが、しかし、ユダヤ人であってもギリシヤ人であっても、召された者にとっては、キリストは神の力、神の知恵なのです。なぜなら、神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。

クリスチャンがクリスチャンのように生きようとする時愚かだと言われます。否定された時にプライドがあると耐えられませんが、プライドが壊されると喜びにかわります。愛する事、喜ぶ事、その為に屈辱をも喜んで受け入れ自分に死め決心をしましょう。

■ ヘブル人への手紙12章27節

この「もう一度」ということばは、決して揺り動かされることのないものが残るために、すべての造られた、揺り動かされるものが取り除かれることを示しています。揺り動かされてはいけないものが残る為、そうでないものが取り去られる為に今があります。本物だけが残る為です。聖書は私達の人生を金だと訳します。私達の金が12金やプリントではなく、純金になるまで精錬し続け本当の純金になった時、神の本質に帰っていきます。是非この神のチャレンジを受け取って逃げることなく共に進んでいきましょう。

(要約者:辻 総一郎)

(3月11日)